

第十五回川尻・安浦地域包括ケアシステムを樹立する会

令和元年9月18日（水）18：00～19：00

テーマ「地域の資源を活用した商工会の取り組み」

第十五回を迎えた今回は、「地域の資源を活用した商工会の取り組み」と題して、呉広域商工会 経営支援課 主任 佐々木 隆司 氏に御講義頂きました。

呉広域商工会は、平成15年～17年に呉市に編入した8町（音戸町・倉橋町・川尻町・安浦町・下蒲刈町・蒲刈町・豊浜町・豊町）の商工会が、平成20年に合併してスタートしました。（ちなみに旧呉市は、呉商工会議所が管轄しています）。平成20年の8町の人口は51,568人でしたが、令和元年になると41,364人と約1万人減少しています。当然、事業者や会員数も減少傾向にある中、8町で頑張る小規模事業者（中小企業基本法上では、卸売業・サービス業・小売業は5人以下の従業員、それ以外の業種は20人以下の従業員の事業所を指す）を支援することが、主な役割という事です。

支援にも2つの支援があって、小規模事業者の創業や販売促進（PRの仕方）、経営戦略、事業継承などの「個社支援」と、地域経済の活性化を一緒に考える「面的支援」とがあり、特に広島県の後継者不足は、全国でもワースト3位ということで、深刻な問題となっているそうです。

これまでの呉広域商工会の顕著な事業として、太刀魚の骨から取った醤油味のオリジナルスープが特徴の豊浜の特産品「豊島ラーメン」の開発や、牡蠣殻をプレス加工し、パウダー状に仕上げた「牡蠣殻ナノパウダー」は全国的に有名です。特に「牡蠣殻ナノパウダー」の用途は、調味料や歯磨き粉、ファンデーション、消臭効果が期待される製品に活用されています。

呉広域商工会の活動は、樹立の会が目指している「地域づくり」の専門職として、呉市の広告塔の役割も担っていることが分かりました。詳細は、ホームページ等で内容を確認して頂けたらと思います。皆さんの中で、もし何か新しいアイデアが浮かんだら、呉広域商工会に相談・提言するのも良いかもしれませんね。

